

2023 年 9 月 1 日以降に川崎医科大学高齢者医療センターへ初めて入院し、2026 年 3 月 31 日までに退院した 65 歳以上の方 及びご家族の方へ

—「高齢入院患者における ADL 維持に関連する身体機能および認知機能の検討：リハビリテーション指標を用いた多変量解析」へのご協力のお願い—

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者 川崎医科大学 認知症学 講師 秋山 真樹

1. 研究の概要

高齢の患者さんが入院された際、食事・着替え・移動などの「日常生活動作（ADL）」がどのくらいスムーズに行えるかは、その後の回復や生活に大きく影響します。

本研究では、入院時の「筋力」「体の動き」「認知機能（記憶力や理解力）」などが、日常生活の具体的にどの動きとどのように関係しているかを詳しく分析します。この関係を明らかにすることで、将来の患者さん一人ひとりに合わせた、より効果的なリハビリテーションやケアプログラムの開発に役立てることを目的としています。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2023 年 9 月 1 日～2026 年 3 月 31 日期间中に当院に初めて入院された 65 歳以上の方で、入院後 14 日以内に日常動作の評価（バーセルインデックス：BI）を実施された方

2) 研究期間

倫理委員会承認日～2028 年 3 月 31 日

3) 研究方法

上記の研究対象期間に当院を初回退院された方の診療情報（カルテ）をもとに研究者が関連するデータを選び、分析を行います。

4) 使用する情報の種類

過去の診療記録（電子カルテ）から、入院後 14 日以内に測定・記録された以下のデータを集計・分析します。

- 基本情報：年齢、性別、持病の経過や状況（CCI）など
- 身体機能・筋力データ：握力、足の筋力、歩行速度やバランスの評価（SPPB）、体組成測定（筋肉量など）

- ・ 認知・精神機能データ： 認知機能テスト（MMSE）、せん妄評価（ICDSC）、気分の評価（GDS-15）など
- ・ 日常動作・生活能力： 日常生活動作（BI）、手段的日常生活動作（IADL）の評価結果
- ・ 栄養状態： 簡易栄養状態評価（MNA®-SF）のスコア

5) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から 5 年間、川崎医科大学高齢者医療センター医局内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

6) 研究計画書および個人情報の開示

・ 研究資料の開示について

個人情報の保護や研究の特許・独自性を損なわない範囲であれば、研究計画書などの資料を閲覧・入手していただけます。ご希望の際はお申し出ください。

・ 個人情報の取り扱い・ご家族への説明

個人情報の開示はご本人のご希望がある場合にのみ行います。また、ご同意をいただければご家族（配偶者、保護者、ご兄弟など）や代理人の方を交えてご説明することも可能です。ご不明な点がございましたら、いつでも担当者までお気軽にお尋ねください。

・ 発表時のプライバシー保護（匿名化）

本研究の成果を学会や論文などで公表する際は、氏名や生年月日など個人を直接特定できる情報を削除・暗号化し、個人が特定されない状態で発表いたします。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2027 年 12 月 31 日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

川崎医科大学高齢者医療センター 高齢者総合診療科

氏名：秋山 真樹

電話：086-225-2112 内線 48049（平日：8 時 30 分～17 時）

3. 資金と利益相反

この研究において、資金の受入及び使用はありません。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが生じかねない状態を利益相反状態といいます。

本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。